

小麦品種「チクゴイズミ」「シロガネコムギ」の早播限界

[要約] 小麦品種「チクゴイズミ」「シロガネコムギ」は11月上旬以前に播種することにより、5月中に成熟期を迎えることができる。しかし、秋播性が低い品種であるため、10月下旬播種では幼穂凍死の発生が多く、著しく減収する。よって、早播の限界は11月上旬である。

長崎県総合農林試験場・作物部・作物品種科	専門	栽培	対象	麦類	分類	普及
----------------------	----	----	----	----	----	----

平成 11、12 年度主要農作物等試験成績書

[背景・ねらい]

暖地の小麦作では収穫期の雨害回避及び水稲との作業競合回避の観点から5月中の収穫を可能とする高品質・安定多収生産技術の確立が強く求められている。一般的には、早播によって収穫期の早進化が図られるが、秋播性が低い品種では茎立ちが早まり、凍霜害を受ける危険性が高い。そこで小麦品種「チクゴイズミ」「シロガネコムギ」について早播における生育、収量および品質を調査し、早播限界を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1．小麦品種「チクゴイズミ」「シロガネコムギ」は、標準播（11月下旬播）に比べて、10月下旬播種で約7日、11月上旬播種で約5日成熟期が早くなり、5月中の収穫が可能である（表1）。
- 2．両品種ともに秋播性が低いため、標準播に比べて、10月下旬播種では54日、11月上旬播種では33日程度茎立ちが早くなり、幼穂凍死の発生が多くなる（表2、図1）。
- 3．10月下旬播種では収量が著しく低下し、検査等級も低下する（表2）。
- 4．11月上旬播種では収量・品質ともにほぼ標準播並である（表2）。

[成果の活用面・留意点]

- 1．早播における千粒重、容積重、蛋白含量の低下を防止するために、穂肥の施用時期、施用量についての検討が必要である。
- 2．中耕土入は12月下旬～1月中旬までに2回、踏圧は12月上旬～1月中旬までに3回実施する。

[具体的データ]

表1 年次別成熟期

播種期	品種名	成熟期(月・日)				標準偏差	変動幅
		1999年	2000年	2001年	平均値		
10月下旬	チクゴイズミ	5.20	5.30	5.23	5.24	5.1	10
	シロガネコムギ	5.21	5.28	5.22	5.23	3.8	7
11月上旬	チクゴイズミ	5.28	5.30	5.22	5.26	4.2	8
	シロガネコムギ	5.25	5.29	5.22	5.25	3.5	7
11月中旬	チクゴイズミ	5.29	6.5	5.24	5.29	6.0	12
	シロガネコムギ	5.28	6.5	5.24	5.31	6.1	12
11月下旬	チクゴイズミ	5.30	6.7	5.26	5.31	6.1	12
	シロガネコムギ	5.29	6.7	5.27	5.31	5.9	11

表2 播種期と生育、収量、検査等級(1999～2001年の平均値)

品種名	播種期	茎立	出穂	成熟	子実	同左	千粒	容積	検査	蛋白
		期	期	期	重	比	重	重	等級	含量
		月・日	月・日	月・日	kg/a	%	g	g		%
チクゴイズミ	10月下旬	1.8	3.19	5.24	40.1	74	38.5	768	3.2	9.1
	11月上旬	1.30	3.30	5.26	55.6	103	40.7	785	1.8	8.8
	11月中旬	2.25	4.5	5.29	51.9	96	40.1	785	1.5	8.9
	11月下旬	3.5	4.8	5.31	53.9	100	40.4	792	2.2	9.8
シロガネコムギ	10月下旬	1.10	3.22	5.23	37.0	73	34.5	769	5.0	9.2
	11月上旬	1.31	3.29	5.25	45.5	90	37.1	791	3.0	9.8
	11月中旬	2.21	4.3	5.31	45.0	89	38.2	797	2.5	10.3
	11月下旬	3.3	4.7	5.31	50.8	100	38.2	800	2.5	10.5

注1) 播種量: 5kg/10a。

注2) 施肥量: 基肥-追肥1-追肥2 = 5-2-3kg/10a、追肥2は茎立ち後7～10日に施用。

注3) 子実重、千粒重、容積重: 2.0mm以上、水分12.5%。

注4) 検査等級: 1(1等上)～6(2等下)の6段階表示。

注5) 蛋白含量: 2000～2001年の平均値、乾式燃焼法により測定。

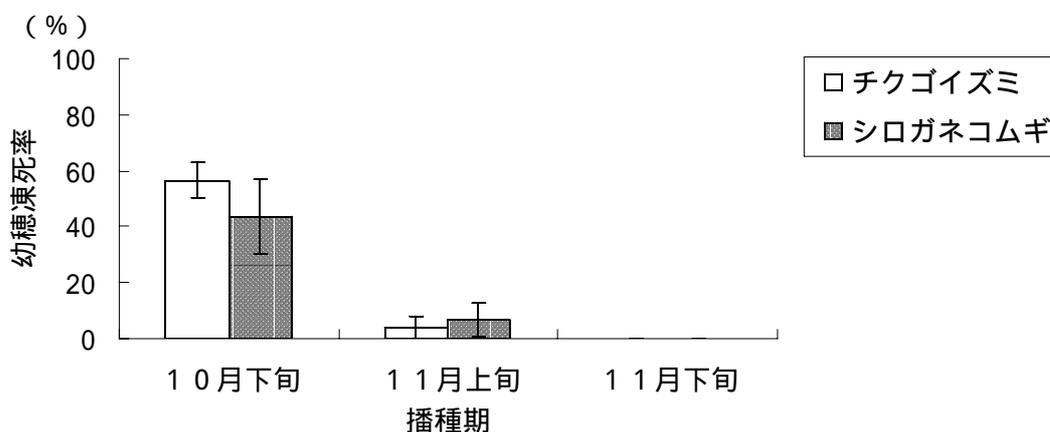


図1 播種期別の幼穂凍死率(1999～2001年の平均値)

[その他]

研究課題名: 西九州海洋型気象地域における秋播性早生小麦品種の熟期早進化技術の開発
 予算区分: 国庫

研究期間: 平成13年度(平成11～13年)

研究担当者: 土谷大輔、佐田利行、坂口莊一

既発表論文等: なし